



帰国報告書

国際ロータリー 第2690地区
青少年交換委員会 御中

提出日：2015年7月11日

※この帰国報告書は今後の青少年交換プログラムをより良くするため、地区委員並びに派遣希望学生に反映する貴重なものです。帰国後、10日以内に指定アドレスに必ず返信してください。

個人記録				
氏名	伊藤香織			
出身高校:	鳥取県立倉吉東高等学校	派遣時の学年	2年生	
保護者はロータアンですか	NO			
スポンサーロータリークラブ名	倉吉ロータリークラブ			
ホストロータリークラブ名	ザ・ヴィレッジズロータリークラブ			
派遣国	派遣国	アメリカ	派遣地区 NO.	6980
	派遣地区(州)	フロリダ州	都市(町)名	ザ・ヴィレッジズ
	派遣先国との時差	13時間00分		
出発	出発日	:2014年8月27日		
	出発空港	鳥取空港	出発便	UA1155
	最終到着空港:	オーランド空港	所要時間	11-12時間ほど
帰国	帰国日	2015年7月2日		
	出発空港	オーランド空港	帰国便	UA564
	帰国到着空港:	鳥取空港	所要時間	11-12時間ほど
通学校	学校名	ザ・ヴィレッジズ チャータースクール		
	制服	有	(私立・公立)	公立
	(共学・男子校・女子校)	共学	専攻科目	数学、US 歴史、 英語(読み)、料理、 ビジネス、化学、英語Ⅲ
	学年	2年	クラス人数	20人ほど
	学年人数	176人	全校人数	511人

ホストファミリー						
	氏名	職業	年齢	ロータアン?	ホスト期間	
第1	ジョン・ローハン	・社長(町のレクリエーション関係) ・小学校校長 ・大学生 ・高校生	・48	NO	2014/8/30	2015/4/11
	クリシー・ローハン		・48			
	ジョン・マイケル・ローハン		・20			
	チャルシー・ローハン		・17			
第2	ジェリー・ラクニック	・支店長(投資管理) ・小学校教諭 ・大学生 ・高校生 ・中学生	・50	ホストファーザーだけ	2015/4/19	2014/6/30
	マイラ・ラクニック		・51			
	ジェイミー・ラクニック		・18			
	ブライアン・ラクニック		・16			
	セラ・ラクニック		・12			
第3				YES / NO	/ /	/ /
第4				YES / NO	/ /	/ /
第5				YES / NO	/ /	/ /

ロータリー青少年交換プログラムについて

1. どこで知りましたか。

中学の先生から紹介。

2. 留学を志願した理由を述べて下さい。

貴重な経験をするチャンスをつかむことができたと感じ、逃したくないと思いました。

3. 留学を志願したのはあなた自身の希望ですか、それとも誰かに勧められましたか。

最終的には自分で決断しましたが、悩んでいたところを家族に背中を押してもらいました。

【派遣準備期間】

4. 派遣候補生として合格後、派遣先が決まるまでの間期待と不安が入り交じっていたと思いますがその感想を述べて下さい。

派遣先が決まるまでの間は、私は不安より期待の気持ちが大きかったです。不安に思っていたことはスムーズに生活に慣れることができるかどうかでした。期待する気持ちが大きかったのは、どんな街かを想像し留学に対するこころの気持ちが膨らんでいました。

5. 1年間の留学により進級出来ない可能性もありますがその点について述べて下さい。

自分の目標があり、そのための留年などは恥ずべきことではないと思っています。

6. 派遣先国が決まった後、その国の言葉に慣れ親しむ為にどのような努力をしましたか。

何事も積極的になることです。そうすることで自然とそれがきっかけ作りになります。また、自分の言葉で

話すことです。まわりを気にしなくても初めは話せないのは当然なのです。徐々に会話の中で学習していくことができます。
7. 派遣までの間に数回のオリエンテーションや受入留学生やROTEX(先輩留学生)との交流会等を開催し留学先でのいろいろな経験談を聞きましたがどのように役に立ちましたか。
行く前には不安の解消になりました。
8. 派遣までにスポンサーロータリークラブの例会に何回出席しましたか、又その時の感想を述べて下さい
だいたい月に1回です。いつも温かく迎え入れて下さり、良く海外で生活するにあたってのアドバイスをしてくださいました。
【派遣先国に到着後】
9. 最終到着空港までトラブルはありませんでしたか。
いいえ。
10. 空港には誰が出迎えてくれましたか。
カウンセラーの方とその家の交換留学生です。
11. 第1ホストファミリーに着いたときの感想は。
緊張しました。第1ホストファミリーはアメリカについてから決まったので、少し不安でした。
12. 派遣先の街の環境、人口は。
比較的安全で、お年寄りの方がとても多いです。人口は5万人ほど。
ホストファミリーについて
13. 部屋は個室でしたか。
はい。十分な広さで、必要なものが整えられていました。
14. 受入態勢はどうでしたか、問題はありませんでしたか。
問題ありませんでした。丁寧な説明をしてくださり(どこに何があるか、使い方など)スムーズに進みました。
15. コミュニケーションについて、どのような問題を感じましたか。
1年たっても話していてわからないことはたくさんあります。また、家族同士で話している時に話に入っていくのが難しかったです。
16. 食事について問題はありませんでしたか。
いいえ。
17. 家庭でどの様な手伝いをしましたか。
基本、聞いて手伝うという感じで、習慣的に決まっていませんでした。
18. 家族の中で主に誰と話をしたり、相談をしましたか。
1つ目のホストファミリーはホストマザーでした。2つ目ではホストシスター(お姉さん)でした。
19. お土産は何を持っていきましたか、又どんなプレゼントが喜ばれると思いますか(具体的に)。
日本のお菓子(伝統的な物、黒砂糖を使ったものなど)。喜ばれるものとして、日本のお菓子は良いと思います。しかし、上記のようなものではなく、もっと一般的に人気で子供の好きそうなものが向こうでも人気です。(ガムやグミ、クッキー、ポッキーなど)
20. ホームシックにかかった事がありますか。それはどのようなときですか。又どの様にして克服しましたか。
1度もありませんでした。

《 ホストファミリーに関して是非後輩の留学生に伝えておきたい事 》

- ① 話せないと思っているのはお互いであるということ。何を話したらいいかわからないのは空いても同じだということ覚えておくといいと思います。
- ② 行事に積極的に参加。無理にしないでいいですが、HF との外出や行事などには積極手に参加することで身につくことも増えます。
- ③ 嫌なことははっきり伝える。HF との関係が壊れることを心配せず、嫌なことや思っていることをはっきりと伝えるべきです。留学生生活を不意にしないためにも大切なことです。
- ④ 手伝えることは自分で見つける。多くの HF は留学生を来客のように扱うため、手伝いを義務づけられることがあまりないと思います。しかし、そこは住ませてもあっている側として自分でできることを見つければいいです。

⑤

学校生活について

21. 受講科目を選ぶとき誰に相談しましたか。

カウンセラー

22. 受講した科目を全て明記して下さい。

数学、US 歴史、英語(読み)、料理、ビジネス、化学、英語Ⅲ(コミュニケーション学習を含む)

23. 好きな科目は何でしたか。

化学

24. 嫌いな科目は何でしたか。

無かったです。難しいと感じるものはありましたが(英語、ビジネスなど)、やるべきこととして取り組みました。

25. 現地の学生と同じカリキュラムでしたか。

時々課題に関して他の学生と変わることがありましたが、通常はすべて同じでした。

26. 授業にはいつ頃からついていけるようになりましたか。

授業によって異なりますが、だいたい半年だと思います。難しいものは一年を通して慣れませんでした。

27. 通学方法は何でしたか、又通学時間はどのくらいかかりましたか。

通学方法は車です。通学時間は15分ほどです。

28. 昼食はどのようにとりましたか(費用は平均どれくらいかかりましたか)。

家から持参します。たまに買うことがありましたが、300円ほどです。

29. 授業は何時に始まり何時に終わりましたか(始業/終業時間)。

7時40分から14時35分までです。

30. 図書館や自習室にて、1人で自習するよう指示されたことはありましたか。

休んだ日の後など遅れた分をするために何度かありました。

31. 語学学校へ行くよう勧められましたか。

いいえ。

32. 日本語の科目はありましたか。

いいえ。

33. 学校から教材を提供されましたか。

教科書は提供され、そのほかの必要なものはホストファミリーが用意してくださいました。

35. 個人指導はありましたか（カウンセラーに相談したことはありますか）。		
いいえ。		
36. 単位はとれましたか（3年生に入った学生は現地の学校を卒業できましたか）。		
はい。その単位を定期的にカウンセラーに送るため、足りない場合はロータリーの行事で休む日などが減らされます。		
37. 帰国後(復学後)その単位は学校で認定されましたか。		
行く前に留学先の単位を生かさないと決めたため、認定されません。		
38. 旅行(修学旅行/遠足など)はありましたか。		
いいえ。		
39. 学校で良い友達ができましたか、いつ頃どのような状況で知り合いましたか。		
授業で助けてもらった時や部活で知り合いました。		
40. 日本の教育制度と派遣先国の相違点を挙げて下さい（日本の学校と現地の学校との差）。		
アメリカは学力の格差に大きな差があると思いますが(やる人は伸びて、怠ける人はそのまま)、日本は学年全体の学力を均一にさせるという傾向があると思います。		
41. 大学進学状況を日本と派遣先国を比較して下さい。		
日本は浪人生活を送ることにに関して抵抗する人が多いですが、アメリカは自分の行きたい大学のためなら浪人することは当たり前のような考え方の違いがあると思います。		
《 学校生活に関して是非後輩の留学生に伝えておきたい事 》		
① 友達作りに関しては自分の得意なこと生かせばうまくいくと思います。何でもいいです。私はスポーツ(部活)を生かしました。		
② 交換留学生ということで多くの方が興味を示します。それは友達になるチャンスが多いということなので積極的に行けばいいと思います。		
③ 授業でわからないことは空き時間を使って先生のもとを訪れることは大切だと思います。		
⑥		
⑦		
宗教について		
42. 考える事があれば述べて下さい。		
1つ目の HF がキリスト教で毎週末には教会へ行っていました。私にとってはそれも良い経験だと思いましたが、中には自分は他宗教だから行かないという人もいました。それは悪いことではなく、そういう風に考える人もいるのだということを知れました。		
2つ目の HF も興味深く、宗教は無いのですが、信じているものとして科学をあげていました。そこから、どう考えるのかお互い聞くことができ、とても面白かったです。		
ホスト・ロータリークラブについて		
概要	ホストクラブ名	ザ・ヴィレジズロータリークラブ
	ホストクラブ会員数	約105人
	ホストクラブ例会開催場所	町のレクリエーションセンター
	ホストクラブ例会開催時間	(朝の例会) 6時40分～8時00分

43. 1ヶ月に何回例会に出席しましたか。	
1回	
44. 小遣いはいくらでしたか。 この金額はGUARANTEE FORM に提示されていたものと同額 でしたか。	
(現地通貨で ⇒ \$75)	
(同じ / 違う⇒ 同じ)	
45. スピーチは何回しましたか。又日本の文化や自分の街などをどのような方法で紹介をしましたか。会員の皆さんの反応はどうでしたか。	
2回ほど。スライドショーを使うことで初めのころのつたない英語でもわかりやすいものになると思います。	
46. 日本に関してどのような質問が多かったですか。又何に興味を示していましたか。	
多くの方が日本に訪れた時の話をしてくださいました。質問というより、自分のストーリーをよく話してくださいました。日本のことではありませんが、家族の仕事についてよく聞かれました。	
47. クラブ例会、EXCHANGE STUDENT MEETING, 地区行事などへの参加について述べて下さい。	
月1の例会以外に地区のロータリーミーティングで国旗行進をしたり、地区の1番大きな行事としてはドラゴンボート大会でRI会長の訪問があったことです。	
48. ホストクラブの青少年交換プログラム活動、さまざまな奉仕活動などで印象に残っているものを述べて下さい。又現地で何か奉仕活動にたずさわりましたか。	
ロータリークラブの主催するイベントのボランティア活動に参加しました。主にチケット売りなど(チリ・クック・オフ)	
49. ロータリークラブ又は地区青少年交換委員会(YOUTH EXCHANGE COMMITTEE)のオリエンテーションはありましたか。あった場合その内容及び回数を述べて下さい。	
交換留学生のためのオリエンテーション(1回)、交換留学生のための研修旅行(2回)	
50. 日本のロータリークラブと派遣先のロータリークラブを比較して下さい。	
基本的には同じようですが、あちらではイノラクトクラブ(高校生が主にボランティア活動を行っている)というものがあり、ロータリーともよく共同しての活動もありました。	
派遣先国での生活について	
51. a. 日常生活で言葉をまあまあ理解出来るまでにどの位の月数を要しましたか。	(半年ほど)
b. 日常生活で言葉をかなり理解出来るまでにどの位の月数を要しましたか。	(1年以上)
c. 日常会話がまあまあ出来るまでにどの位の月数を要しましたか。	(半年ほど)
d. 日常会話がかなり出来るまでにどの位の月数を要しましたか。	(1年以上)
e. 環境, 考え方, 風俗, 習慣, 文化の違いに馴れるまでどの位の月数を要しましたか。	(3ヶ月位)
52. その違いの中でに馴れるのに困難を感じたのは何でしたか。又それをどのように対応・克服しましたか。どうしても馴染めないものがありましたか。	
相手の気持ちを考えることが困難でした。そのため馴染むのが大変で、ですが、その考え方の違いを認めることでスムーズにきました。馴染めないものは特にありませんでした。	
53. 学校での友達を除き、ロータリー・他国からの交換留学生・地域社会などで良い友達ができましたか。それはどのような状況で知り合いましたか。	
ロータリー交換留学生制度では交換留学生が集まるイベントなどがいくつか用意されていてそれで仲を深めることができます。またボランティア活動は大人の方ともかかわり合える良いチャンスだと思います。	

54. 健康状態はどうでしたか。
何事もなく過ごしました。
55. 気候はどうでしたか。
基本的に1年を通して暑い日が続きます。特に夏の日差しはとても強いです。冬の時期、朝が少し冷え込みます。
56. a. 普段どの様な服装で過ごしましたか。それは日本で準備をしたほうがいいですか、それとも現地で揃えたほうがいいですか。
特にどちらがいいということはないですが、いくつかを日本から持っていき必要に応じて買うということだと思います。
b. 特別な服装は必要でしたか(それはどの様なものでしたか)具体的に述べて下さい。
アメリカではパーティーが多くあり(ミーティングなども含めて)、ドレスなどが必要になりました。気にしない方もおられると思いますが、小物なども必要になると思います。(アクセサリやバッグなど)
57. パスポート、航空券、お金(T/C)等の貴重品はどのように保管しましたか。
自分で管理していました。スーツケースなど鍵のあるものの中に入れておけばより安全です。
58. ピンバッジはどのような場面で交換しましたか。
交換留学生のための旅行があり、その際に交換しました。またその時、日本の国旗または行く国の国旗を用意してそこに寄せ書きをしてもらう機会もありました。
59. どこに旅行に行きましたか。その中で特に素晴らしい所はどこでしたか。誰と行きましたか。地区委員会推薦の旅行はありましたか。(旅行の費用はどれ程かかりましたか)
アミューズメントパークやや動物と触れ合える場所に HF と行ったことです。行った場所が楽しいというのももちろんですが、外出で HF との仲を深めることができたのが嬉しかったです。地区委員会推薦の旅行ではお金はサポートしてもらえたため、私物を買うためのお金くらいが必要でした。
60. 留学中の楽しかった事を挙げて下さい。
英語での会話が続くようになってきた時です。また多くの場所を訪れることができ、日本の風景の違いを見るのも楽しかったです。
61. 留学中の苦しかった事を挙げて下さい。又それをどのように克服しましたか。
話すスピードが遅いとき、理解してもらうまでに時間がかかりそうだと、「大丈夫だよ」と言われえ話を切られてしまうことでした。
62. この一年間の留學生活で何を得たと思いますか。
人間関係を作ることの楽しさ、行動力、やりきることの素晴らしさ、将来への目標など一言では表せません。
63. 帰国後それをどのように活かそうと思いますか。
目標ができたので、それを達成させるために日々の生活に生かし、またこの興奮をなるべく忘れないように保っていく努力もしていきたいです。
64. 将来この経験をどのように結びつけたいとおもいますか。
将来の職業に生かしたいと思います。
65. 留学への期待と実体験との間にどのような差がありましたか。期待以上だった事、期待はずれだった事を述べて下さい。
向こうでの生活に関して、早くなじめると思っていたが多くの時間を有しました。また期待以上だったこととして、多くの信頼できる本当の友に出会えたことです。
66. 他の留學制度と比較しロータリーの青少年交換プログラムの長所・短所を述べて下さい。

<p>長所として、とても安全なプログラムであることです。以前留学していた際に会った他の留学プログラムの子は多くの問題があることを聞きました。そのときロータリーの安全性に改めて気づかされました。短所として地区によって決まり事が異なっていること。(特に帰国日に関しては一か月ほど違いがあったりする)</p>	
<p>67. 今後はROTEXとして後輩の指導に協力をして頂くこととなりますが、自分の体験を通して今後の派遣学生に対する アドバイスを5項目以上挙げて下さい。</p>	
④	<p>困難に直面した時はまず行動したらいいと思います。</p>
⑤	<p>はじめから焦らずに一年かけて身に着けようという気持ちで臨めば力が抜けて良いと思います。</p>
③	<p>自分だけで抱え込むのではなく、話せる人を見つけることが大切です。</p>
⑥	<p>嫌なことははっきり伝えるべきです。相手は伝えないとわかりません。</p>
⑦	<p>先入観だけで判断してしまうのはあまり良くないです。意外と違っていることが多いと思うのでまずはトライしてみてください。</p>
⑧	<p>留学は自分で良いものにも悪いものにもなります。この貴重な経験を積極的に思いっきりやり遂げてほしいです。</p>
⑨	
<p>68. 今後のあなたの夢を述べて下さい。</p>	
<p>将来は国際間で仕事をしてみたいと思っています。</p>	
<p>69. ロータリーの青少年交換プログラムに対する建設的提案、意見を述べて下さい。</p>	
<p>素晴らしい交換プログラムだと思いました。ですが、この制度を知る人、トライしてみる人は少ないのが現状でもっと多くの人に知ってもらうことが必要だと思いました。</p>	
<h3>1年間のロータリー留学生生活を振り返っての感想</h3>	
<p>この1年間の留学はとても早く感じました。ホストファミリーと出会い、友達に出会い、ロータリークラブ、多くの方々に助けられ、本当に良い経験をする事ができました。</p> <p>日本を発つ前はもちろん不安な気持ちもありましたが、期待する気持ちの方が大きく、向こうの空港に着いたときはとても興奮していたのを覚えています。着いた時には、ホストファミリーが決まっていないという状況でした。しかし、それもすぐ解決し、新しいホストファミリーに出会えました。まったく彼らのことが分からないという状況からのスタートで少し不安もありましたが、温かく受け入れて下さり私の留学生活が無事に始まりました。</p> <p>学校では、行く前に関しては早く行きたいという待ちきれない気持ちでいっぱいでした。しかし、いざ学校での生活が始まるとわからないことばかりで焦る毎日でした。初日に多くの人に声をかけてもらってもなかなか覚えることができず、友達作りも大変でした。ですが、本当に焦る必要はなかったのだと今はとても感じています。時が経つにつれて、どうすべきかわかってくるので初めに頑張りすぎる必要はありません。何度も言ってきましたが、部活に入ることで友達との友情も深まりました。部活に入らない人ももちろんいますが、1つの理由として友達作りだけでなく、気持ち的にもリフレッシュになるため、留学先で多くの人が参加するのではないかと思います。学校である様々な行事にも参加することで他の学年の人とも交流でき、多くの人と知り合えました。アメリカは日本とは違って上下関係がはっきりしていない分、上級生や下級生と親しみやすいというふうに感じました。</p> <p>ロータリーの交換留学生として各国からフロリダに来た同じ交換留学生たちと会う機会が何度かあり、今考えるとそれはとても素晴らしいことだったと改めて感じています。主に私たちはオリエンテーション、ディズニー旅行、キーウエスト研修などで他の交換留学生と会うことができました。お互い話をする中で、文化交流もできお互いの国の理解を深めました。またそれぞれの地区での集まりはよく行われました。(誕</p>	

生日会や様々なイベントへの参加など)それもロータリーの交換留学生と交流できる機会なのです。ロータリーの交換留学生は他の留学生たちに会う機会があるということでも良いプログラムだと思いました。

あっという間に帰国日が迫り、1日1日がとても貴重でした。後悔がないように毎日を過ごしましたが、やりたいことは決して尽きることはなく、本当に帰りたくないと思いました。しかし、この留学で得た新たな目標のためにこれから頑張っていこうと思いを持つことができました。この留学での思いを忘れないようにし、これから待っている新たな生活に励んでいこうと思います。

※全ての質問項目について正直にかつ出来るだけ詳細に記載してください。

レイアウトに拘らず、段は自由に追加してください。